



「ファイアー・ストーム」 評・前島常郎

あらすじ

ケイラブ・ホルト（カーク・キャメロン）は、消防士である。結婚して7年の妻のキャサリン（エリン・ベシア）は大きな病院の広報担当者。子どもはいない。

ニューヨーク州のある消防署の責任者として、地域では尊敬されているケイラブだが、夫婦仲は悪い。好きで結婚したのに、今では顔を合わせるとケンカになり食事も別だ。消防士の結婚生活が「炎上中」というところから、二重の意味を持たせてこういうタイトルになったのだろう。

* * * * *

燃えている家から意識不明の子どもを救い出す場面や、線路の上に取り残された事故車を貨物車が近づく直前に男たちが素手で線路外に移そうとするなど、手に汗握る見せ場は2つあるが、真のクライマックスは、かみ合わなくなった夫婦の歯車が再びかみ合うところだ。

「もうおしまいだ」と嘆く息子に、父親がアドバイスする。「離婚手続きを40日間だけ延ばして、オレが試して役に立ったことをお前もやってみなさい」と。それは聖書からの40日間のアドバイスで、1日1つだけ簡単なことを実行する。これを「愛の挑戦」と呼ぶ。ケイラブは、しぶしぶ同意す

る。40日かけてすることは、1日目 妻に悪い言葉をかけない。何か言いたくても口を閉じる

2日目 少なくとも1つ感謝の念を示す行動をとる

3日目 何かを買って、愛情を示す

4日目 してほしいことはないか、聞いてみる

…

17日目 相手の話に耳を貸す

18日目 相手について勉強する

…

ところが、これを20日間続けたのに、キャサリンは興味を示さない。それどころか、むしろ職場で優しくしてくれるハンサムな医師のギャビンに心をひかれていく。

「もういやだ、やめたい」と電話をするケイラブに、父親は言う。

「今が一番つらくなる頃だ。自分の動機が問われるからな。とにかく40日続ける」

お勧めする理由

ジョージア州にあるキリスト教会の企画作品だけあって、土台に福音が組み込まれている。

父親の促しでキリストを信じるようになったケイラブは、それまではしかたなくやっていた「愛の挑戦」を、心から実行するようになる。それを見て、キャサリンも、

「私も、あなたのようにになりたい」と言い始める。

ケイラブにとつての誘惑の一つはインターネット・ポルノだ。妻が帰ってくる音を聞いてあわててパソコンのスイッチを切るような生活。それが、キャサリンには耐えられない。しかし、クリスチャンになった後は、ポルノサイトの入り口でケイラブの手が止まってしまふ。自分の中毒を断ち切ろうと、パソコンをバットでたたき壊す。（ただし、ポルノ映像そのものは画面に出て来ないのでご安心ください）

ケイラブに消防署の友達が、いいアドバイスをする。

「女性は花みたくないもので、水をやれば咲くけど、放っておけば枯れちゃうんだ」

「赤の他人の家の火を命がけて消すお前が、自分の家は焼け落ちて

るままに見過ごすのか？」

何でも言い合える男女たちとはありがたいものだ。

父親と約束した40日を過ぎて、ケイラブは「愛の挑戦」をやめなかった。それが、固く閉じていたキャサリンの心を開くことになる。

夫婦ゲンカは、どこか家庭にもある。離婚後の生活を描いた物語は、いくつもある。しかし、夫婦ゲンカをどう收拾するか？

「離婚」の2文字を頭に浮かべた夫婦が、どうやって再び愛の炎をかき立てるか？ それを描いた映画は見たことがなかった。後味のいい映画である。ご夫婦でみることをお勧めします。

（本評を書くために、以下のサイトを参考しました）

<http://www.pluggedinonline.com/movies/movies/a0004166.cfm>



「ファイアー・ストーム」

原題◆Fireproof
監督◆製作・脚本：アレックス・ケンドリック
製作◆脚本：スティヴン・ケンドリック
撮影◆ポップ・スコット
製作国◆2008年アメリカ映画

上映時間◆1時間58分
キャスト◆カーク・キャメロン、他
国内未公開作品、DVD
販売元◆ソニー・ピクチャーズエンタテインメント